

聖徳太子の靈言(2010年8月4日)

担当:石田昭 2015年6月7日

- 1 アメリカに押し付けられ、飼いならされ、熏習されてきた。「戦後体制」から脱却することが必要である。よきものは吸收しつつも、独自の国として、新たに栄える段階にきた。
- 2 戦後日本が精神的に弱いのは、宗教の漂流が原因である。マッカーサーの日本弱体化計画
- 3 イスラム圏のように国家宗教にした例は仏教にはなし。日本でも神道派(物部)との戦い、儒教の取り入れ、国家神道の創作、そして失敗など、変遷があった。大和の国でも、ムーの末裔意識(祖神様認識)が希薄になって仏教を注入。明治は廢仏毀釈。今、救世主によるEC信仰注入。
- 4 この程度の政党を作る事もできないのなら、EC信仰は蜃気楼に過ぎない。自分達のサークル内での単なる戯言にしか過ぎない。日本神道の源流にECがあることをマスコミに説得せよ。
- 5 政党の壁を突破すれば、この世でも通用する宗教として世界各国に広がるきっかけになる。
共産党宣言 vs 幸福実現党宣言を意識し、国際幸福実現主義運動へ発展させる気概を持て。
- 6 ローマ帝国はキリスト教と一体となって、全ての面で世界最高レベルの帝国になった。今回の運動も、日本を中心に仏教的精神を発信して、世界に広大な文化圏を構築する運動である。日本神道の大イノベーションとはムーの子孫を自覚する運動、EC教の国教化運動もある。
- 7 参議院選ではこの理解が足りず、目標がみすぼらしかった。聖徳太子憲法案が降ろされているのに、大統領制の必要性などが説得ができていなかった。マスコミに勝て、勝てば政治も動く。
- 8 サークル的な仲間内活動を脱皮して、本当の意味での大きな使命感を持った活動が必要。脱皮しないといけないし、脱皮する方法がこの政治活動である。デッドラインの条件付予言。
- 9 強固な組織、「目的合理性」のある組織を作ること。「中だけで通用する話」ではだめ、「人々の声に対して、聞く耳を持たない」点も大きかった。外部で信用されていない。
- 10 もう一段、大きな使命を持つこと。「地の果てまでも伝導する」などの言葉は仲間内では通じるが、外では通じない、相手にもされない。「何で一議席も取れないのか?」となる。翻訳する技術、マグロ料理を作る技術、その練習が不足。宗教的には応病施薬ができない。
- 11 政党が勝てない原因は幹部のセクショナリズムにある。幹部の基本的な認識力が低いから。幹部の器が小さくて、小さな心しか持っていない。総裁から出ている理想を信じていない。会社仕事的に自分の範囲内での業績を守ろうとしている。このままでは救えない。
- 12 幹部に高い認識力が求められている。要するに人間が小さいのです。本当は幹部がもう駄目なのだと思う。教団がもう一つステージを上がろうとしているのに認識が低い。
- 13 話の内容に妥当性と普遍性があり、正当性があれば、一般の人も、心が動かされ、応援したくなってくる。政治的な活動についての理念がはっきりしていて、それを実現したいというのなら、応援する人、支持者は増える。「出てこない」と思うなら認識が甘い。
- 地震爆発論も罵詈雑言が無くなり、賛同者が増えている。地震論：マスメディア20名への公開質問状
- 14 確実に国論の中心になってきているが、弟子は怠け者である。組織が昼寝をしている。
- 15 中央集権国家として力を持つには大統領制をとるべきであり、そのほうが地方を抑え込むだけの力が出てくる。国民から直接に選ばれた人なら、実行力が伴ってくる。
- 16 官僚は格上の(徳力のある)政治家を求めていた。官僚制を壊したら本当に国家そのものが崩壊する。マスコミもだらしない「談合マスコミ」になっている。マスコミに勝て!
- 17 頭の切り替えが悪すぎる。もっと、勇気を持って、企画、提案、行動をするべきだ。
- 18 パイオニア軍団であることを示さないと、会員も燃えてこない。(立木党首に)少し独裁をしてもいいから、やる気のある人をそろえていきなさい。大日靈貴神様は我慢の限界